



白南風小学校 学校だより

令和5年10月6日号

しらはえっ子

校長 三代 直正

やさしいっぱいの子 やる気いっぱいの子 元気いっぱいの子

運動会へむかって 一致団結



朝夕は過ごしやすくなり、ようやく秋を感じられるようになってきました。
白南風小学校では、10月22日（日）の運動会へむかって、一致団結モードに入りました。10月2日の朝は、赤組白組に分かれて応援団の団結式をしました。応援団長や団員の紹介を兼ねた決意表明から始まり、最後は応援の練習も始めることができました。赤組白組の勇ましくそしてカッコいい団旗も出来上がっています。6年生は、これから大変忙しくなると思いますが赤組白組をしっかりとまとめて、優勝へ導いてほしいと思います。

学習もしっかり がんばっています！

9月はたくさんの研究授業を行いました。2年生は算数科「図を使って考えよう～ふえたりへったり～」の授業を9月7日に2年2組、9月21日に2年1組。6年生は、国語科「生活の中で読もう～新聞記事を読む～」の授業を9月26日に6年1組、9月28日に6年2組。こすもす学級は、算数科「立体の体積」の授業を9月29日に実施しました。

各学年2クラスあるので、最初の学級の授業を振り返り、次の学級の授業は改善点を生かし更に授業の質を向上させるようにして指導力向上に努めています。白南風小学校子供たちは、研究授業を楽しみにしておりよくがんばります。それが私たち教師の励みにもなっています。

今回は特に6年2組の授業について紹介します。

「見出し」(下の記事にふさわしい見出しを考えます)

弁論大会に出るようになったのは、高校1年の夏休みの課題に核廃絶をテーマにした原稿を提出したのがきっかけ。当時は、自身が被爆3世である事を公表することへの不安から被爆者の祖父の存在には触れなかった。だが、2年時には祖父の願いを発信するとともに、核兵器禁止条約に後ろ向きな日本政府の姿勢に疑問を呈して県大会と九州大会で優勝した。

「今から20年後か30年後、私たちの世代が政治の中心になったとき、せめて日本人だけでなく核廃絶の意識をしっかりと持ち、唯一の被爆国として世界に訴えたい。最高のパフォーマンスを」と語る。心を決め、語りかけるような弁論を意識して臨んだ本番。「聴衆に届いた」という確かな手応えがあった。長崎県原爆をめぐり、将来、海外で原爆の惨状を伝え、日本と世界の平和の架け橋に「いね」とくしく、泣いて喜んでくれた。(中村修)

平和活動には今後も取り組んでいくつもりという。「原爆投下から78年しかたっていないのに、8月6日も9日が何の日か知らない人もある。世界には原爆の惨状を知らない人がたくさんいるはず。このままだと100年後、200年後には祖父の願いを発信することが難しくなるか容易に想像がつく。それが怖くてしかたない」と危機感を募らせる。

子供たちには本物の記事（写真入り）を提示しました。

授業の流れは、次のとおりです。

- 1 めあてをつかみ新聞記事を担任と一緒に読む。
- 2 各自が自力で新聞記事の見出しを書いてみる。
- 3 自力解決した見出しをもとに班で見出しをまとめる。
- 4 各班の見出しを学級全体で伝え合う。
- 5 本時のまとめをする。

子供たちは、次のような見出しを考えました。

- 世界の平和の架け橋に
- 核廃絶のために日本と世界の平和の架け橋に！
- 日本と世界に 平和の架け橋を
- 届いた！被爆3世新愛さんの思いとは
- 平和のために「手をつなぎませんか」

実際の新聞記事の見出しは、「平和の架け橋になれたら」でしたが、私は、子供たちが考えたどの見出しもとっても素晴らしいと思いました。

今日の授業のねらいは、本物の見出しを当てることではなく、見出しをつけるという目的に向かって、少し難しい新聞記事を読み活字に対する抵抗をなくすこと。それから、各自の考えを班のみんなで更に練り上げることで様々な視点で考える力を育てることでした。さすが白南風小学校の6年生。レベルの高い授業にもしっかりと挑戦できる子供たちでした。

実は、この授業を仕組んだのは本校がNIE実践校の指定を受けていることもありでした。

NIEとは、(Newspaper in Education エヌ・アイ・イーと読みます) 学校などで新聞を教材として活用したり、新聞作りを行ったり、メディア・リテラシーを学んだりする活動の総称です。

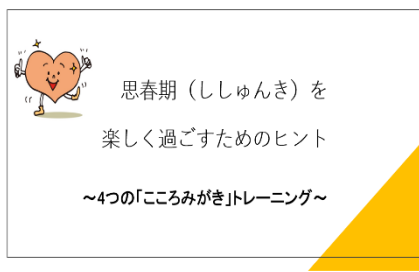


今回の授業の様子を長崎新聞社の記者の方が取材に来ていました。

そこで、授業の最後に授業を見た感想をお願いしたところ、子供たちの良かったところをたくさん褒めていただきました。子供たちはにっこり。自信をもって授業を終えることができました。

今回の取材の記事は、毎週日曜日の長崎新聞ジュニア版「メクル」のコーナーで10月15日に掲載予定です。お楽しみに。

思春期講演会（9月28日）



長崎県内の大学や小中高校でカウンセラーとして活躍されている臨床心理士の伊藤勢津子先生を講師としてお招きし、思春期講演会をおこないました。

前半は5年生の児童にもわかりやすく思春期の特徴や4つの心のトレーニング法を話してくださいました。

後半は保護者を対象に子育てのヒント（思春期編）の話でした。思春期には、「大人のモデルが必要」「自己肯定感を育てるには、褒め方が大切」「子育ての4つの柱：1 他の子供と比べない 2 子供の持ち味を大切に 3 出来たことは認め、出来ないことは一緒に考える 4 できるようになろうとする努力を大切に（やり遂げた感を共有）」など会場の保護者の方も大きく頷きながら聞き入ってしまう内容でした。